

会社は、運転士泣かせの ATS-P Tの問題点を改善せよ！

ATS-P Tが導入された本線で乗務している運転士のみなさん！
導入されてから9ヶ月が経過しましたが、乗務員からは「非常に運転しづらい」「安全装置ではなく不安装置だ」などの声が吹き出しています。会社は、こうした運転士の声を全く無視し、ATS-P Tに多くの問題があるにもかかわらず何ら改善しようとしていません。

運転台で信号機に対してパターンが作られたことが分かる装置を設置すれば運転士の負担は軽減される！！

このような装置は、すでにELでは（インジゲーター）や東日本のATS-P T区間の気動車に搭載されています。技術的には可能なのに東海会社はその必要はないの一点張りです。金がかかるようなことには経費節減を全面に出し「見ざる」「言わざる」「聞かざる」を決め込んでいる葛西会長を筆頭にしたJR東海経営陣の姿勢は許せません。

私たち東海労は要求します！

1. ATS-P Tでパターンに接触した場合、非常ブレーキ動作によらないで、常用ブレーキの動作に変更すること。
2. 運転台でパターンがつくられたことが分かる装置を設置すること。
3. ATS-P Tの導入に際して運転士の負担増を改善すること。

リニアに膨大な無駄金を使うより運転士泣かせのATS-P Tの改善に廻せば運転士の負担・不安は軽減されるのではないのでしょうか。

他労組のみなさん！東海労と共に闘いましょう！